

S I D R

(滋賀県感染症情報)

SHIGA Infectious Diseases Report

〈月報〉
平成 20年 12月
(第49～52週)

発行年月日：平成21年(2009年) 2月 3日
発行 行：滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター
電話 077-537-7438 FAX 077-537-5548

1) 全数報告の感染症(一類～五類)

全国の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。このことを全数報告といえます。また、届出により全国または滋賀県で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。

感染症 類型	疾 病 名	平成 20年		平成 19年		感染症 類型	疾 病 名	平成 20年		平成 19年				
		1～11月	12月	1～12月	12月			1～11月	12月	1～12月	12月			
一類	エボラ出血熱	0	0	0	0	四類	ニパウイルス感染症	0	0	0	0			
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0		日本紅斑熱	0	116	0	16	0	98	
	痘そう	0	0	0	0		日本脳炎	0	3	0	0	0	10	
	南米出血熱(*)	0	0	0	0		ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	
	ベスト	0	0	0	0		Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	
	マールブルグ病	0	0	0	0		鼻疽(*)	0	0	0	0	0	0	
	ラッサ熱	0	0	0	0		ブルセラ症	0	4	0	0	0	1	
二類	急性灰白髄炎	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0		
	結核(*)	259	25,189	23	2,548	178	20,151	0	0	0	0	0	0	
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	重症急性呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	鳥インフルエンザ(H5N1)**	-	-	0	0	-	-	1	51	0	6	1	52	
	コレラ	0	45	0	0	0	0	12	0	0	0	0		
三類	細菌性赤痢	2	285	1	33	**2	450	0	4	0	1	0	12	
	腸管出血性大腸菌感染症	51	4,185	2	122	55	4,586	0	0	0	0	0	0	
	腸チフス	0	52	0	5	0	47	0	0	0	0	0	0	
	バラチフス	0	25	0	3	1	22	0	0	0	0	0	0	
	E型肝炎	0	41	0	2	1	54	9	818	1	66	8	655	
四類	ウエストナイル熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	A型肝炎	3	163	0	7	1	154	0	37	0	5	0	34	
	エキノкокクス症	0	16	0	1	0	16	0	0	0	0	0	0	
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	オウム病	0	8	0	1	0	30	0	0	0	0	0		
	オムスク出血熱(*)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	キャサナル森林病(*)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	Q熱	0	3	0	0	0	7	0	3	0	0	0	7	
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	コクシジオイデス症	1	2	0	0	0	3	1	70	0	5	1	56	
	サル痘	0	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	17	
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	西部ウマ脳炎(*)	0	0	0	0	0	0	0	2	753	3	70	2	714
	ダニ媒介脳炎(*)	0	0	0	0	0	0	0	5	113	0	7	0	88
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	つつが虫病	0	301	0	133	0	370	0	0	0	0	0	0	
	デング熱	2	96	0	8	1	89	0	79	0	1	0	80	
	東部ウマ脳炎(*)	0	0	0	0	0	0	0	2	290	0	13	-	
	鳥インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	39	10,944	0	61	-	

滋賀県における全数報告感染症の概要(12月)

<結核>

性別:男性 14名、女性 9名
 類型:患者 20名
 無症状病原体保有者 2名
 疑似症患者 1名
 病型:肺結核 16名、その他の結核 7名

<細菌性赤痢> 男性 22歳

推定感染経路は経口感染で、推定感染地域はインドです。

<腸管出血性大腸菌感染症>

性別:男性 1名、女性 1名
 年齢:3歳、68歳
 血清型・毒素型:
 O157・VT2 1名
 O157・毒素型不明 1名
 (HUS症例)

<レジオネラ症> 男性 74歳

推定感染経路、推定感染地域ともに不明です。

<アメーバ赤痢> 男性 54歳

病型は腸管アメーバ症です。推定感染経路は異性間性的接触で、推定感染地域は日本国内です。

<梅毒> 男性 46歳、49歳、74歳

推定感染経路は異性間性的接触 2名
 および不明 1名で、推定感染地域は日本国内および大韓民国です。

(*) :平成19年4月1日から集計 - :平成19年は定点把握対象疾患のため未集計
 (***) :平成20年5月12日から集計 - :平成19年および平成20年1月～5月11日は未集計

*1 検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分1件を含む

2) 定点把握の対象となる五類感染症

感染症発生動向調査事業に係る報告のうち、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、その定点から報告される感染症を定点把握対象感染症といい、また、定点当たり患者数とは、一週間を単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります(疾患により定点数は異なります)。また、疾患によりインフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点および基幹定点に分かれています。

12月の概要

<インフルエンザ>

第49～52週(12/1～12/28)の発生状況は第48週以前と比較すると急増し、毎週、各保健所管内ともほぼ倍増していました。

<小児科定点疾患>

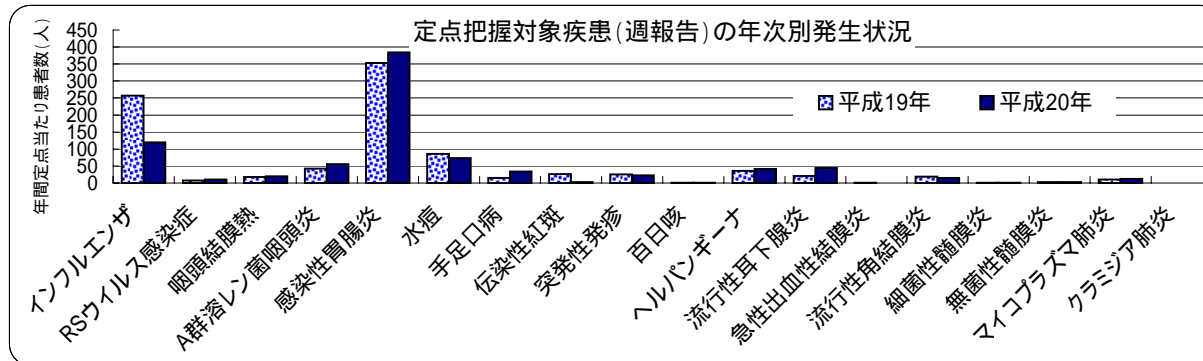
各疾患の発生状況については疾病別定点当たり患者数のグラフに示すとおりです。先月より増加が著しかった疾患はRSウイルス感染症、感染性胃腸炎および水痘です。その他の疾患については微増または減少、あるいは横ばいとなっていました。RSウイルス感染症は先月に引き続き、昨年同時期よりかなり多くなっていました。また、感染性胃腸炎については、昨年同時期の約30%減となっていました。保健所管内別では長浜からの報告が多くなっていました。

警報・注意報システムによる警報および注意報の疾患別発生状況は、咽頭結膜熱(プール熱)では東近江および高島で警報発生基準値(終息基準値)0.10を、感染性胃腸炎では甲賀および長浜で警報発生基準値(終息基準値)12.00を越えていました。特に、長浜では第49～52週の間連続して基準値を越えていました。また、水痘では第51週(12/15～12/21)に東近江で警報発生基準値(開始基準値)7.00を越え、第50～52週(12/8～12/28)には彦根および長浜で注意報発生基準値(4.00)を越えていました。流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)では甲賀で第51週に注意報発生基準値(3.00)を越えていました。

<眼科定点疾患> <基幹定点疾患>

眼科定点疾患である流行性角結膜炎は先月より半減し、急性出血性結膜炎の報告はありませんでした。また、基幹定点疾患である細菌性髄膜炎は天津から、無菌性髄膜炎はやや増加し天津、東近江、長浜から報告されていました。マイコプラズマ肺炎は先月の約1/4に減少し、東近江および長浜から報告され、クラミジア肺炎は東近江から報告されていました。

定点把握対象疾患(週報告)の年次別発生状況



年間定点当たり患者数を平成19年と比較すると、上記グラフに示すとおり平成20年はインフルエンザ等で減少し、感染性胃腸炎等で増加していました。

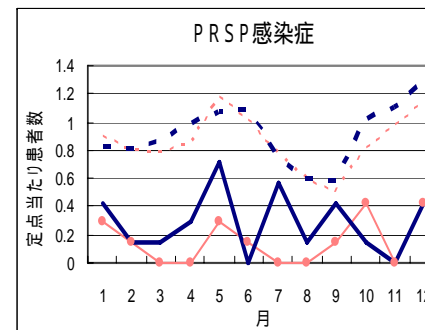
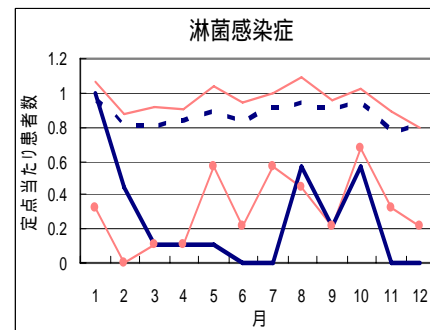
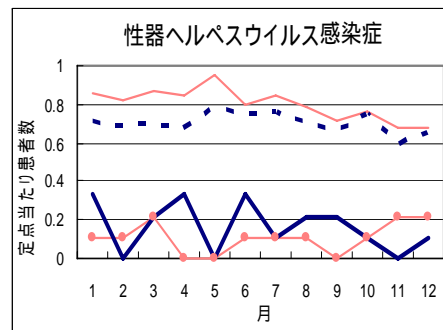
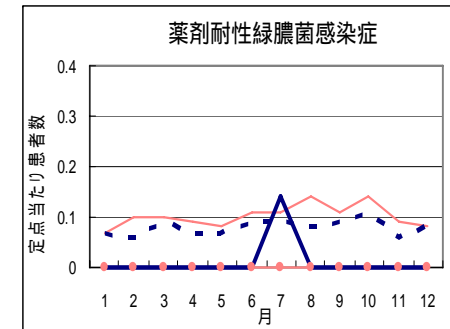
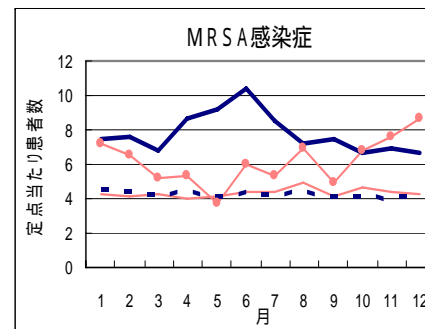
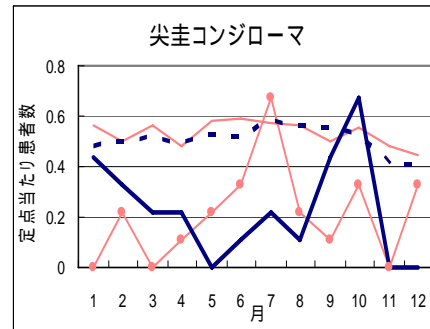
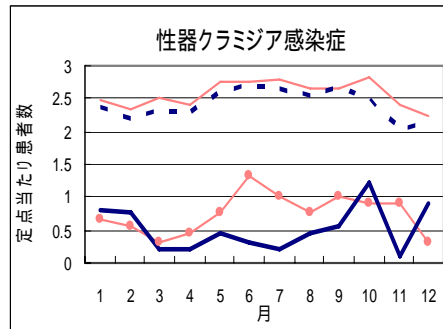
全国集計などの詳細な集計結果は、**国立感染症研究所感染症情報センターのホームページ**(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)において公表されています。

<各定点の対象疾患>

定 点	疾 患 名
インフルエンザ定点	インフルエンザ
小児科定点	RSウイルス感染症、咽頭結膜熱 A群溶レン菌咽頭炎、水痘 感染性胃腸炎、手足口病 伝染性紅斑(リンゴ病)、百日咳 突発性発疹、ヘルパンギーナ 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)
眼科定点	急性出血性結膜炎 流行性角結膜炎
基幹定点	細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎 マイコプラズマ肺炎 クラミジア肺炎(オウム病を除く)

3) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成20年12月)

疾患名	区分	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
性器クラミジア感染症	罹患数	7	7	2	2	4	3	2	4	5	11	1	8	56
	定点当たり	0.78	0.78	0.22	0.22	0.44	0.33	0.22	0.44	0.56	1.22	0.11	0.89	6.21
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	3	0	2	3	0	3	1	2	2	1	0	1	18
	定点当たり	0.33	0	0.22	0.33	0	0.33	0.11	0.22	0.22	0.11	0	0.11	1.98
尖圭コンジローマ	罹患数	4	3	2	2	0	1	2	1	4	6	0	0	25
	定点当たり	0.44	0.33	0.22	0.22	0	0.11	0.22	0.11	0.44	0.67	0	0	2.76
淋菌感染症	罹患数	9	4	1	1	1	0	0	5	2	5	0	0	28
	定点当たり	1.00	0.44	0.11	0.11	0.11	0	0	0.56	0.22	0.56	0	0	3.11
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	罹患数	52	53	48	61	64	73	60	50	52	47	49	47	656
	定点当たり	7.43	7.57	6.86	8.71	9.14	10.43	8.57	7.14	7.43	6.71	7.00	6.71	93.70
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	罹患数	3	1	1	2	5	0	4	1	3	1	0	3	24
	定点当たり	0.43	0.14	0.14	0.29	0.71	0	0.57	0.13	0.43	0.14	0	0.43	3.41
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	定点当たり	0	0	0	0	0	0	0.14	0	0	0	0	0	0.14

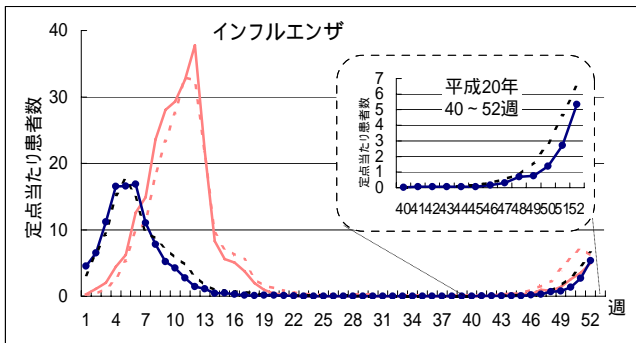


戻る

H19 { 滋賀 (solid red line), 全国 (dashed red line)
H20 { 滋賀 (solid blue line), 全国 (dashed blue line)

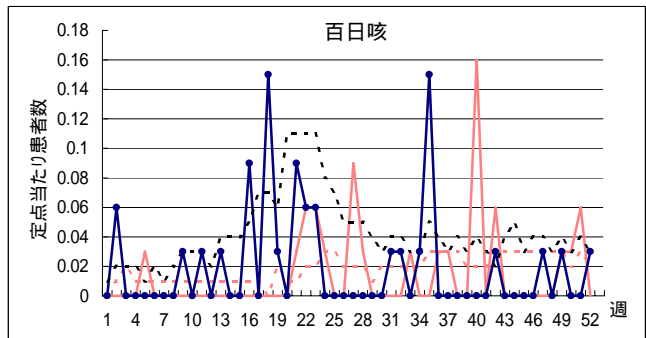
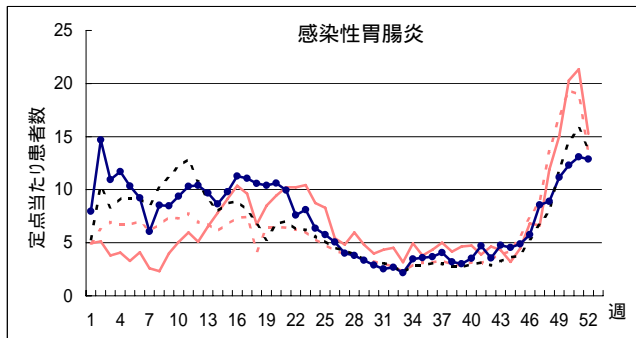
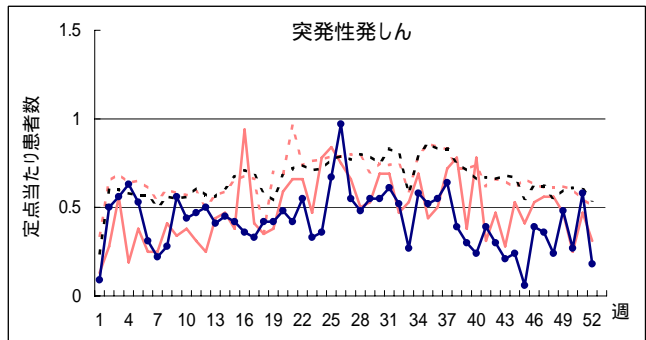
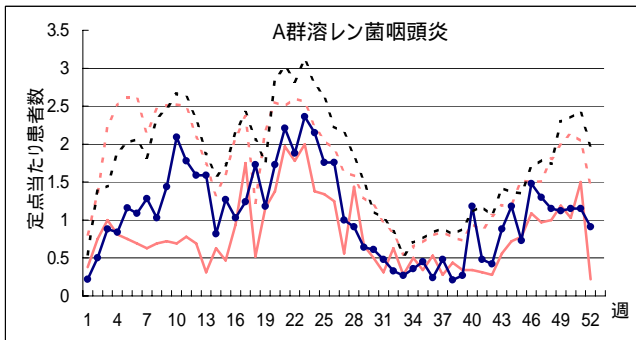
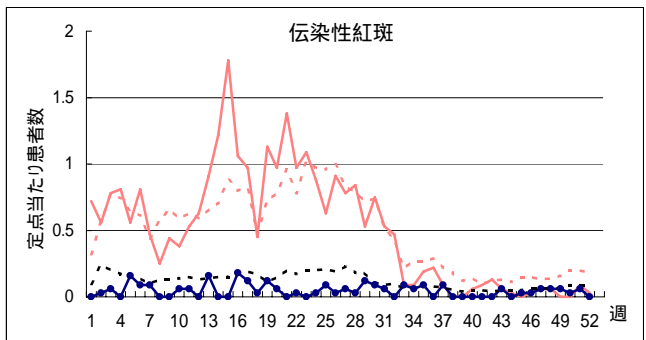
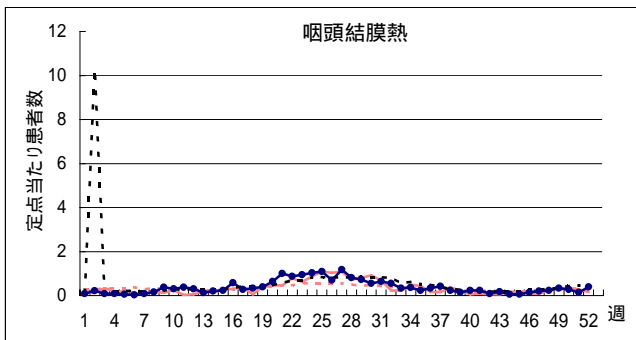
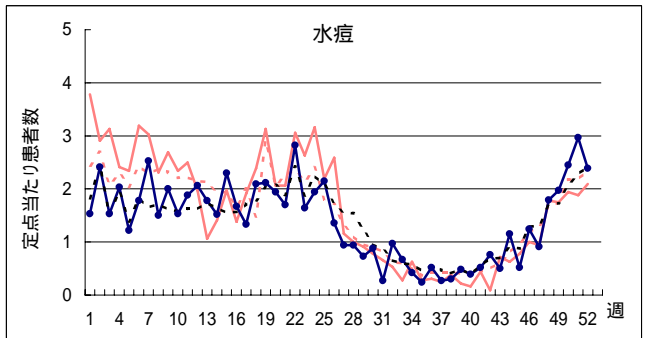
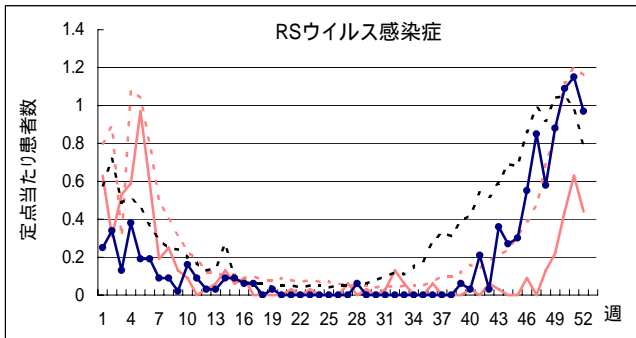
MRSA: メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
PRSP: ペニシリン耐性肺炎球菌

疾病別定点当たり患者数(平成20年第52週、H19.12.31～H20.12.28)

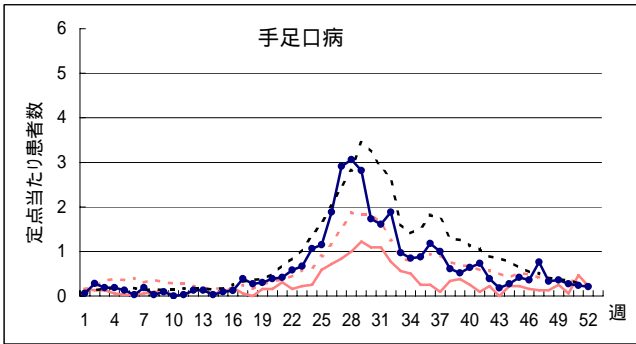


H19 { 滋賀 (solid red line)
 全国 (dotted red line)

H20 { 滋賀 (solid blue line with dots)
 全国 (dotted black line)



疾病別定点当たり患者数(平成20年第52週、H19.12.31～H20.12.28)



H19 { 滋賀 ————
 全国
 H20 { 滋賀 ●—●—
 全国

